

生涯にわたって学び続け、その「学び」を社会の中で生かす。「学び」から「行動」へ
地域で展開される住民参加の活動やNPO活動などをとりあげます。

今号の
 視点

「うちの畑が、まさかお城の遺構!?!」地区公民館に集まりはじまった「江美城を探る会」。町の内外で勉強会やフィールドワークを行い、江美城の魅力を探求中。城ガイド育成にも取り組む活動の様子取材しました。



メンバーでガイドの練習中

好奇心でつながる まちの歴史を知りたい、知ってほしい!

～ 江美城を探る会 (江府町) ～

歴史ファンをも魅了する江美城

「もともと町の歴史にはまったく興味がなくて」。そう話しはじめたのは川上淑子さん。「江美城を探る会」を結成した現代表です。講師を含め、メンバーは38人。町の内外から参加します。令和3年の春、江府町に戦国時代からある江美城の魅力を勉強しようと、地区公民館に集まり活動がはじまりました。

江美城は蜂塚安房守によって築城されたと伝わる山城で、山陰では唯一の例となる金箔鱈瓦の一部などが見つかっています。尼子氏や安芸毛利氏とも関係する歴史ある城に、住民だけでなく歴史ファンや研究者からも熱い視線がそそがれています。

※堀切とは空堀の一種。主に山城に用いられる防御のための土木建築物。城などで、外敵の侵入防止・遅延のために曲輪や集落の周囲やつなぎの部分に人工的に開削して造る。

うちの畑が、まさかお城の遺構!?

川上さんが町の歴史に興味を持ったきっかけは、川上さんの家の畑。ここで、アマチュア歴史研究者の方と出会いました。「この畑、江美城の堀切*ですよ。いい堀です」と言われて、川上さんはびっくり。「畑

江美城とは? 山陰初の金箔鱈瓦片が出土!

たたら製鉄や開田によって勢力をつけた蜂塚安房守により1467～84年(応仁元年～文明16年)に築城された戦国時代の城といわれています。その後、尼子氏の支配下に。この一帯は日野往来と作州街道の交通の要衝で、長く尼子氏と毛利氏による戦いの舞台となりました。1564年(永祿7年)に毛利氏の将杉原盛重の猛攻を受け、4代蜂塚右衛門尉は自刃し落城。

本丸の檣台跡をはじめ、遺構も多数存在しており、城跡の全景を見渡すことができます。1997年(平成9年)の発掘調査では、山陰初の金箔鱈瓦片が出土。毛利氏の支配下で栄えた重要な城だったと推測されます。

の地名を『ホイギー』とよんでいましたが、^{あざな}字名『堀切』とわかり納得。自分の住む町なのになにも知らなくて。いろいろ教えてもらったお礼に、大根と白菜を持ち帰っていただきました」。

会発足のきっかけは、コロナ禍でできなくなった集落婦人部の料理教室にかわる活動はないかと相談を受け、私自身も知りたかった江美城の歴史を学ぶのはどうかと提案し、歴史の学習会が始まりました。西伯蒼のお城にくわしい仲田雅史さんに声をかけ、城の学習会を開催したところ大好評。回を重ねるとほかの地区からも人が来るようになりました。

勉強会と、現地でのフィールドワーク

月に1回、日曜日の昼間に^{まな}愛ベルこうふ（防災・情報センター）で勉強会をしています。先人が残した江美城のリアルなジオラマを使い、江美城を巡る攻防戦を再現する勉強会も開きました。ペットボトルのフタを軍勢に見立て、爪楊枝でつくった旗を動かします。精巧な模型が良い教材になりました。

年に数回は、実際に現地を訪れフィールドワーク。江美城本丸のほか、町内各地を探索しました。「町の各地区で大切にされている昔話があって。その昔話にてでくる場所に行ってみると、本当に館跡や石垣跡などがあったんです。7つ確認しました」と、川上さん。ときには、茂った草を刈りながら進みました。

学んだことを活かす！ ガイドを返礼品に

令和4年11月には、江美城とゆかりの深い尼子氏の居城^{がっさんと だじょうあと}月山富田城跡（島根県安来市）を訪れます。これが刺激となり、自分たちでも江美城西の丸の周辺整備や城ガイドをしたいと動き出しました。また、江府町歴史民俗資料館までの歩道の手すりを修繕してほしいと町に要望。町がクラウドファンディングで寄付を募り、手すりの修繕が実現しました。



月に1回、日曜日の昼間に行われる勉強会



フィールドワークで江美城本丸の天守台跡を探索

会結成をきっかけに、たくさんの人の「おもい」が集結!!

当初、集落婦人部の学習会としてスタートしましたが、婦人部の会長の^{たにくちうたこ}谷口歌子さんの強い後押しで公民館自主講座として会を立ち上げました。

講師として、奥大山古道保存協議会会長の^{ささきみつる}佐々木満さん、町の元教育長の^{てしまゆきお}手島征夫さん、兵庫県で教員をしていた^{いのうえゆうきち}井上裕吉さんもメンバーに。川上さんが声をかけました。

会結成の翌日には、江美城のジオラマが届きました。結成を聞きつけ、「これで勉強してほしい」と、ジオラマの存在を知っていた^{もりたてつや}森田哲也さんと教育委員会職員が運びました。ジオラマは、町の教育委員会に勤めていた^{たけうちゆきお}竹内幸夫さんによってつくられたリアルなもの。江美城に興味を持つ人やものが、ぞくぞくと集まりました。



ジオラマを使い、江美城を巡る攻防戦を再現

クラウドファンディングの返礼品には「城ガイドをします」という項目も。「メンバーの提案に最初は驚きました。寄付してくださった方をがっかりさせても嫌だし、恥をかいても嫌だし。やるからには、がんばらなくちゃ!」と、川上さんは意気込みます。ガイドの方法は、訪問をきっかけに交流する「富田城ガイド」や日野町の「奥日野ガイド倶楽部」から学びます。

ガイドマニュアルは、住民メンバーが中心となって作成しました。「自分の言葉で作れたかった」と話す川上さん。講師陣にはていねいにチェックを担当していただきました。日々、ガイドの練習に励んでいます。



日々、ガイドの練習に励みます!

世代に関係なく集える場所

メンバーの最年少は、小学4年生の高橋源^{たかはしげん}さん。歴史が大好きです。「子どもって、普段、同じ目線で話せるのは友だちしかいないと思うんです。でも、ここには同じ目線で話せる大人^{すぎはらもりしげ}がいて。それが楽しいみたいです。この前も、杉原盛重の本を読んだっていうから、

ああ、読んだ読んだって忍びの話で盛り上がって。ガイドも半分くらい覚えていますよ」と、川上さんは語ります。

会は、多世代にわたる歴史ファンの憩いの場。「孫と祖母で参加する人もいます。専門家もいれば初心者もいて。ときには、『それ違いますよ』って、ダメ出しをされることもあります。ああ、勉強したのになって思うけど、それも楽しみで」と、川上さん。

江美城の新たな魅力を探り続ける

知れば知るほど、もっと知りたくなる……。地域の歴史に興味がない人や歴史が苦手という人にも、分かりやすく江美城の魅力や町の歴史を伝えていきたいと考えます。そして今日も、メンバーは江美城の新たな魅力を探っています。

500年近く続く「江尾十七夜」
今年の8月17日は日曜日。ぜひ、江府町へ!

江美城を築城した蜂塚氏は、お盆の十七日の夜には城門を開放し領民を城に招き入れ、無礼講でお酒をふるまい、踊りやすもうで夜を明かす、領民思いの城主だったそうです。城が落城したのちも人々は毎年17日の夜に供養として踊りあかしました。この踊りは「江尾のこだいち踊り」として今に伝わっています。



役場の職員もプライベートで参加!

メンバーには、江府町教育委員会の川上^{かわかみ}柁^{とうい}維さん、史学科出身の総務課の下村^{しもむら}愛^{ありん}鈴さんをはじめ、職員も参加しています。会発足時からプライベートで活動に参加。町内向け広報紙江美城新聞の作成など、淑子^{しゅし}さん^{さん}をかげで支えます!



左から、下村愛鈴さん、川上淑子さん、川上柁維さん

